

《令和六年度暗唱⑤》

忘れもの

高田敏子

入道雲にゆうどうぐもにのって

夏休みなつやすはいつてしまった

「サヨナラ」のかわりに

素晴すばらしい夕立ゆうだちをふりまいて

けさ 空そらはまっさお

木き々の葉はの一枚いちまい一枚いちまいが

あたらしい光ひかりとあいさつをかわしている

だがキミ！ 夏休みなつやすよ

もう一度いちど もどってこないかな

忘れわすれものをとりにさ

迷まよい子ごのセミ

さびしそうな麦むぎわら帽子ぼうし

それから ぼくの耳みみに

くっついて 離はなれない波なみの音おと

